

### □ルーツは唐の都

当時の日本の国、あるいは地方の行政の中心施設は、メインの建物を南向きに配し、その両側に付属の建物を力タカナの「コ」の字形に配置した。胆沢城の場合は軍事的な中心施設だが、同様の特色を持っている。

当時の都、平安京の平安宮。真ん中の建物大極殿を中心に、南側の両側に付属の建物を「コ」の字形に配置している。その囲まれた広場に多くの役人が集まり、儀式や会議を行っていた。

陸奥国の国府だった多賀城。三度、建て替えが行われているが、いわゆる政庁という建物が「コ」の字形に配置されている。中央から来る使者、あるいは蝦夷の代表者と相見える、行政上あるいは儀式的な空間として使われた。

ツというのは、当時のアジアに大きな影響を与えていた中国の唐。都の中心の建物・長安城も、このように左右対称の形をとっている。その配置が、遣唐使の見聞を通して律令制度とともに日本に導入され、地方を支配していく過程で広まってきた。

平城宮、平安宮、あるいは平城京、平安京という都の空間は、全体として長方形、あるいは正方形に近い長方形。胆沢城もまさしく、そのような形を成していると思う。

### □拠点に自然地形

当時の陸奥国(宮城県や岩手県)、あるいは山形から秋田にかけての羽国においては、役所の政庁(中心部分)は「コ」の字形の左右対称の形をしている。しかし、防衛という軍事的な意識があったため、その周りは必ずしも方形になりにくい状況にあった。

複数の自然の谷というよりは比較的直線を成している、ある種「堀」の役割をしている。このことから、防衛的なことを意識し、この場所を選んだと指摘できる。結果として鳥海柵は、いくつか谷で囲まれた工

# 実像解明へ調査課題なお

リアは、全体として長方形である。方形な区画を頭に入れながら、区画をしていったのではないかと考えている。

### □不明瞭な肝心要

一番初期の四面廂の大型建物(全体図①)があった場所(縦街道南区

というよりは、宗教的、仏教的、寺院のような側面も考慮しながら検討していく必要があると考える。11世紀初めのころの、いわゆる金属の工房や土器に関わる工房があったりしているが、いわゆる事務を執るオフィスのエリアがよく分からない。11世紀中ごろの前九年合戦の段階にしても、原添下区域に中心な建物があるが、ぼつんとある。南側の四角いエリア(鳥海区域)は、四角く掘り断崖で囲まれていて、内側は堀や櫓があったが、建物らしい建物が少ない。戦国時代に陣を構える時の布のような仕切りで、簡易に囲むような施設が主としてあったとも考えられる。

域は、南側の谷と東側の段丘崖で囲まれた区画の、かなり真ん中に近いところを選んで建てている。それから前九年合戦があった11世紀中ごろ、戦時下において、原添下区域にはさらにL字型に人工の堀を掘って加えた(全体図②)。この人工の堀の内側も全体的には四角形。その真ん中や南寄

一連エリアとして鳥海区域があって、西側を人工の堀で区画した。これも大きく言えば方形区画とすることが出来る。全体図①にある北側の建物は、単独であり、これが安倍氏の政治的中心

## 金分崎の国指定史跡 鳥海柵を知る

— 町民大学2013 シンポジウムより —

7

## 佐川正敏氏 (東北学院大学教授) 胆沢城から鳥海柵へ

鳥海柵跡全体図

